

第71回国民体育大会(いわて国体)、第16回全国障害者スポーツ大会
 (いわて大会)の結果と結果を踏まえた競技力向上対策等について

第71回国民体育大会(いわて国体)

- 大会開催期日 平成28年10月1日(土)~11日(火)
 [会期前:9月4日(日)~11日(日)]
- 開催地 岩手県
- 今大会の成績
 男女総合(天皇杯)成績 33位(888点) [H27 24位(940点) H26 35位(810.5点)]
 女子総合(皇后杯)成績 38位(466.5点) [H27 26位(486点) H26 34位(449.5点)]
 成年男子26位(昨年34位)、成年女子31位(昨年33位)、
 少年男子21位(昨年16位)、少年女子40位(昨年20位)
- 今大会の状況

評価できる点	昨年に比べ振るわなかった点
<ul style="list-style-type: none"> ・順位は下げたが得点は、過去10年間で3番目にあたる。(別添:表1) ・成年種別が活躍、3年間連続で獲得得点上昇(実力あるふるさと選手の起用に成功した)(別添:表2) ・経年的に安定して得点を獲得している競技種別が実績を上げた。(アーチェリー、ボート、ホッケー、馬術など) ・近年得点をとれなかった競技種別が得点を獲得した。(ホッケー成年男子が35年ぶりの優勝、テニス少年男子が準優勝など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年少年種別は過去10年間で最も良い成績であったが、今年は少年種別、特に少年女子が10年間で最低であった。(得点源競技が近畿ブロック大会で敗れ本国体に出られなかった)(別添:表3・4) ・例年得点を獲得していたが、本国体で入賞を逃したり、近畿ブロック大会で敗退した競技種別があった。(ホッケー少年女子、カヌー少年女子、水球、ライフル成年男女、レスリング少年男子、陸上少年女子など)

- 今後の対応
 - 充実期(H29~H32)の目標10位台、1200点。平成29年度は20位台前半への進出を目指す。
 - ・滋賀国体での中軸となる年代を含めた少年種別の一層の強化
 - ・安定的得点獲得競技種別の競技力維持とさらなる向上
 - ・準備期の取り組みが進み、成果を上げている競技種別の強化
 - ・競技得点の大きな競技種別の強化
 - ・全国レベルと競技力の差が大きい競技種別の強化方策の確立
 - ・滋賀県競技力向上基本計画の見直し
 - ・競技団体強化計画の見直し
 - ・ふるさと選手の確保拡大
 - ・今年度モデル的に始めた「2024滋賀国体強化拠点校」の本格実施
 - ・あと一步で入賞やブロック大会突破が見込める競技種目に対する強化費の戦略的配分

表1

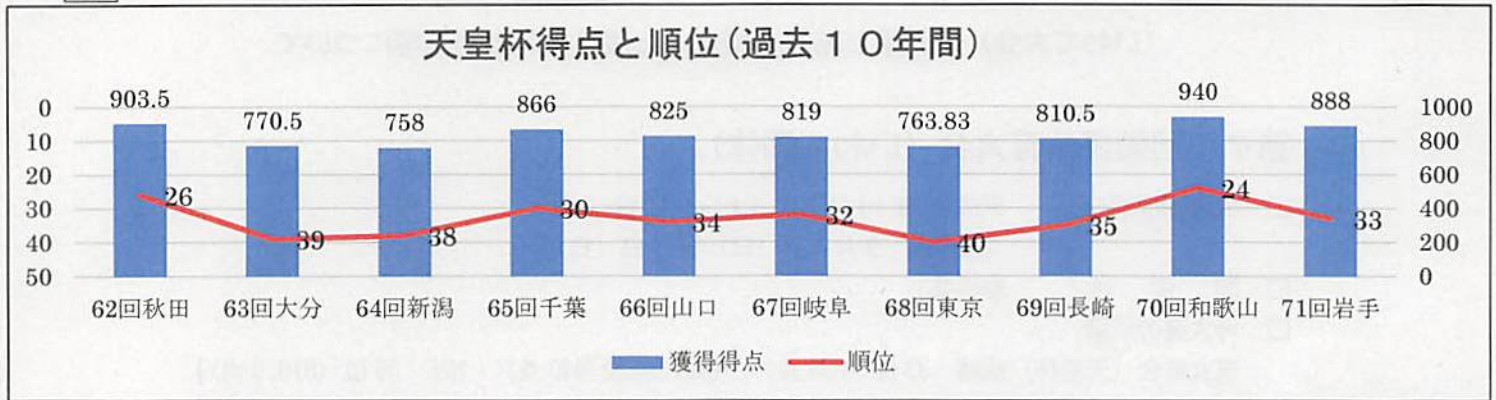


表2

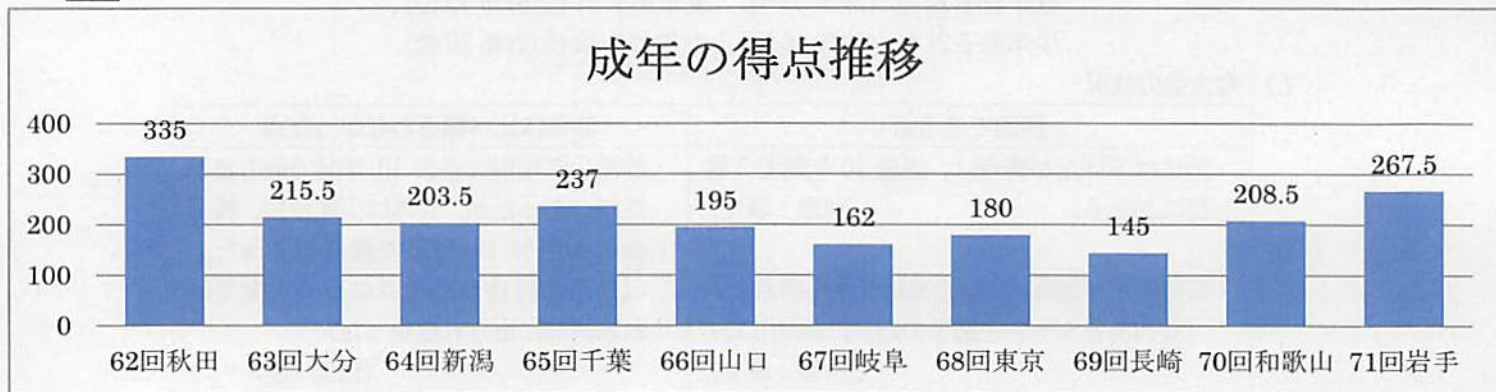


表3

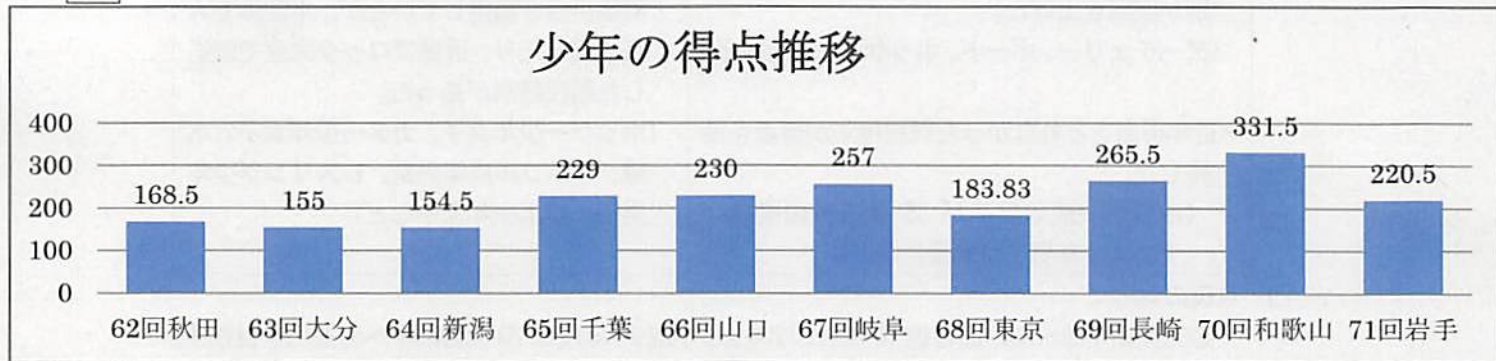
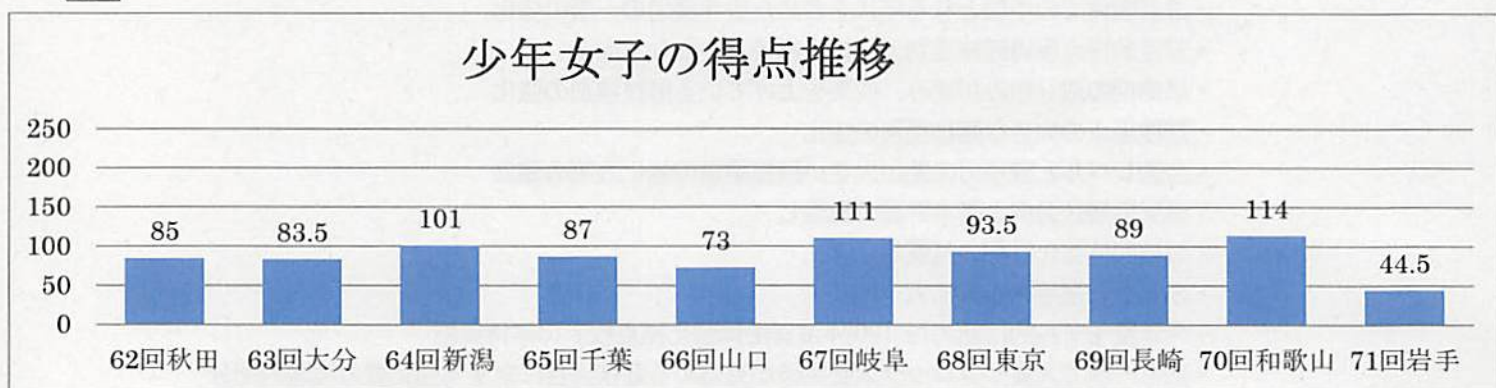


表4



第16回全国障害者スポーツ大会（いわて大会）

□ 大会開催期日 平成28年10月22日（土）～24日（月）

□ 開催地 岩手県

□ 今大会の成績

金メダル 16 銀メダル 14 銅メダル 5 計 35個 (H27年45個)

自己新記録 11個

大会新記録 3個 (日本知的障害者水泳日本新記録含む)

□ 今大会の状況

- ・選手27名(欠場者1名含む)が6種目の個人競技に臨んだ。
- ・大会事務局から指定される出場選手枠が前年度より7名少なかったが、金メダルの数は16個で同数を獲得できた。
- ・大会新記録は水泳競技に集中しており、中でも少年女子50m自由形では知的障害者水泳日本記録を樹立した。
- ・団体種目は、近畿ブロック予選を勝ち抜けず、今大会の参加はなかった。

□ 全国障害者スポーツ大会の状況を踏まえた滋賀県の課題と今後の対応

	現状と課題	今後の対応の方向性												
競技力	<p>【全国障害者スポーツ大会の競技水準の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技によって差がある競技水準 ・より高い水準への競技力向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・競技別の選手育成 ・選手が上位大会に出場しやすい環境の整備 												
普及	<p>【障害者の社会参加を目的とする大会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後もスポーツができる環境の少なさ ・スポーツを始めるきっかけの少なさ 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で継続してスポーツに親しめる環境 ・スポーツの楽しさや魅力を知ってもらう機会の創出 												
	<p>【滋賀県での開催に向けた選手層の拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県障害者スポーツ大会の参加者数の減少 ・選手の高齢化 ・新規参加者の少なさ 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の実数を伸ばす取組 <p>【参考】</p> <table> <tr> <td>県大会参加者(のべ)</td> <td>H27</td> <td>1,505人</td> <td>→</td> <td>H28</td> <td>1,482人</td> </tr> <tr> <td>県大会参加者(実数)</td> <td>H27</td> <td>696人</td> <td>→</td> <td>H28</td> <td>757人</td> </tr> </table>	県大会参加者(のべ)	H27	1,505人	→	H28	1,482人	県大会参加者(実数)	H27	696人	→	H28	757人
	県大会参加者(のべ)	H27	1,505人	→	H28	1,482人								
県大会参加者(実数)	H27	696人	→	H28	757人									
<p>【全国障害者スポーツ大会に参加できない団体競技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近畿ブロック予選の突破が困難 ・県内にチームがないため、近畿ブロック予選にも参加できない団体競技 	<ul style="list-style-type: none"> ・団体競技の拠点の試行的な整備による競技力の向上 ・チームの創出 													